ごあいさつ

この度は栗原針山書展二〇二四にご来場いただきありがとうございます。今回は新作を中心に旧作も少し合わせた展示となります。

さて、近年 Chat GPT をはじめ急速に AI の技術は進化してきてその恩恵を日々受けています。しかしどんなに AI が発達しても残念ながら人間の世界で戦争や犯罪がゼロになることはないだろうし、下手すればフェイク動画等によって助長されることだってあり得る。当然ながら AI 技術で全てが解決されるわけでもありません。良くも悪くも人間は必ずしも合理的にはならない部分があります。例えばなかなかリセットできない心の傷は、単に修正できるデータというわけではない。だがだからこそ、そこに生まれるものもある。今一度「人間力」に目を向けることで存在意義を再確認できるのではないだろうか。便利だからと言って何もかも AI にまかせて、考えることをやめてしまったら人間が人間であることの意義をも放棄してしまうことになります。

その人間の本質を捉えるために幅 7 メートル以上の超大作も創りました。大きいサイズにありがちな筆を暴れさせた類のものではなく、じわじわと静かに、だが圧倒的なエネルギーで奥底に迫るようなものにしたかった。表面的な派手さや綺麗さは要らない。新たな造形の中で、人類の歴史から一人の人間の有様に落とし込めるよう壮大なテーマに取り組んだ次第です。

また前回に引き続き、特殊なカーブミラーを用いた展示があります。このインスタレーションにおける「実体を取り戻す」という命題は現在、重要性をより増しているのではないだろうか。

SNS 社会の中での孤独も近年クローズアップされています。寂しさを依存で埋める人や孤独を紛らわすために表面的に集まってかえって虚無感が増していく人たち。だが「孤独」自体は決して悪いことではない。受動的孤独は心を蝕むかもしれないが、能動的孤独は自分と向き合うことで己を高めることにつながる。言い換えれば望まぬ孤独と望む孤独である。そして能動的孤独を経て内面の自由を獲得できれば、過度な承認欲求など必要としなくなるのではないだろうか。こうした人間の繊細な機微といった部分の表現のための連作も創りました。

物事の過程が簡単になるのは良いことである一方、短絡的になって想像力が欠如して人間性の欠陥につながったら本末転倒である。今何を求めるのか、人間の領域や立ち位置を見つめ直し、人間という存在を活かしきって生きる契機になるような展示空間になればと思います。

2024 年 5 月　　栗原針山